

それは、大きな誤解です。ただ決して、わるいこと、まちがったことには迎合しない姿勢から、そう思われるのかもしれませんが。

国会でも地方議会でも、議員団の議案の審議に当たっての立場は、国民(市民)の福祉向上という仕事になっているのか、国民に益があるのかないのかを判断基準にして、賛成・反対を決めています。また他党のように、政党同士の思惑や駆け引きで賛否が変わるようなことは一切なく、特に反対する場合には、その理由を明確にして、必要な提案も行っています。その姿勢は、つねに一貫しています。

日本共産党は、戦前の軍国主義の時代から、侵略戦争反対とともに、「国民が主人公」・国民主権の民主主義政治を党の信条とし、その立場を命がけで貫いてきた歴史を持つ政党として、「議会政治」を守りぬいています。日本共産党員を的確に語るなら、私利私欲のためではなく、「世のため、人のため、正義のために、頑固一徹に活動する人たち」と言えるでしょう。